

OB会報

湘南サッカー部 OB会報 第37号

2018年スペイン・ドイツ遠征報告

64回生

若木 均

この原稿は2018年9月21日に書き始めている。選手権二次予選二回戦、東海大相模との試合を明日に控えた前日の夜である。

少し間をおき、残念ながら2-3というスコアで東海大相模戦を終え、彼らに関わらせていただいた数か月間を思い出しながら筆を進めている。4年ほど前から湘南高校近くに小児科クリニックを開業し、その後藤沢に引越してきて、ときどき現役生の練習に参加させていただいたり、試合を拝見させていただいたりする中で、スペイン遠征ヘドクターとして帯同するお話を頂戴した。そして今回この会報に、遠征の報告を書かせていただくこととなった。

行程としては3月下旬の春休み、羽田を出発しドイツ・ミュンヘンに3泊。スペインに6泊というものであった。ミュンヘンでは、2018年のシーズン途中までJリーグのヴァイセル神戸でヘッドコーチを務められたエンゲルス氏が手掛けるエ

ンゲルス・プログラムに参加し、オーバーハヒングという地の広大な面積をもつスポーツ施設で指導練習、試合を行った。施設は天然芝、人工芝あわせて4〜5面のサッカー場やテニスコート、体育館、宿泊施設など非常に充実しており、我々の他にもさまざまな団体が利用していた。余談ではあるが、我々の滞在期間の前週は大雪にみまわれ、京都から来て



ビルバオで練習後の集合写真

いた高校サッカー部は試合も行えなかったとのこと。我々も雪の影響で天然芝グラウンドは使用できず、ほとんどが人工芝を使用しての練習、試合となった。

普段と異なる指導者、異なる切り口での指導方法に選手たちはとまどう部分ももちろんあったと思うが、それぞれが個人のプレーに、またチームのプレーに落とし込んで活用してくれると良いなと思いながら拝見していた。そして竹谷先生、町田コーチも多くの部分をプログラムに任せ、一方で、指導内容や方法、指導技術を吸収しようという姿勢で臨まれていたように感じた。

ミュンヘンでは観光の時間は多くなかったが、ミュンヘン市街地をバスで回り、繁華街での自由行動があったりした。また、到着日夜にドイツリーグの4部、1860ミュンヘンとVFR Garching(ガルヒング)の試合を観戦することができた。ドイツは3部以上がプロリーグになるので日本というJFLにあたるだろうか。今回の遠征ではイースター(復活祭)と時期が重なったため各国のトップリーグは行われておらず残念だったが、迫力あるゲームと老若男女がビールなど飲みなが

ら熱狂的な歓声を上げ合唱するスタジアムの雰囲気を選征の最初に味わえたことは選手たちにとってもよかつたのではないだろうか。



ミュンヘンでの試合観戦風景

また今回の遠征では3つのスタジアムを見学した。ミュンヘンではバイエルン・ミュンヘンのアリアンツ、スペインではビルバオのサンマメス、レアルマドリッドのサンチャゴ・ベルナベウ。アリアンツが最初だったためか、赤で統一されたホーム側、ピッチよりも低い地下から闘いの場へと階段を昇って観客の待つピッチに登場する形など印象深く圧倒される思いであった。

スペイン・ビルバオには3月26日

に移動。指導練習、試合を行った。指導練習は2日間にわたり、バルセロナ、エイバルから2人のコーチが参加。通訳として岡崎篤さんというスペインでユース年代の監督を務め実績を積まれている方が入ってくれました。岡崎さんの指導は頭とからだに入ってきやすく、私自身も膝の故障がなければ選手と一緒に指導を受けたかったところである。竹谷先生から子どもたちに「岡崎さんのなるべく近くで話しを聞いてきなさい」と提案があり、子どもたちが金魚のフンのように付いていつている光景が好かった(今回の遠征では、竹谷先生のお子さん、相羽団長のお孫さん、私の娘・息子も帯同していて、彼らにとっても貴重な体験となったと感謝している)。

試合では、トップチームとエイバル・ユースとの試合が最も見応えのあるものとなった。結果は0-3であったが、非常に緊張感のある好ゲームで(観客目線)、試合に出場した選手、見ていた選手とも、相手チームからも、湘南のチームからいろいろなることを感じ、吸収するきっかけになったのではないかと思われた。ビルバオには5日滞在し、世界遺産であるビスカヤ橋観光、遠征当初

から続くガストレータ校との交流会、旧貴族から買い取ったという歴史を感じるビルバオ本部の見学と旧市街地の観光、アスレチック・ビルバオのBチーム(ビルバオ・アスレチック)が所属するスペイン3部リーグの試合観戦など、指導練習・試合とともにあつという間に過ぎていった。

行程の最後はマドリッドでの観光だったが、その前にモラ村というオ



ビルバオの練習(中央が岡崎さん)

リーブ油で有名な地で試合と交流会が催された。スペインではプレシアでもビルバオでもモラ村でも、サッカー場に必ずカフェやバルがあり、村の方たちが集い、コーヒーやワイン・ビールを飲み、ピンチョスを

まみ、サッカー観戦するという文化が根付いていることを感じた。

ビルバオでの指導練習では「ワイドにポジショニングをとる・相手を抜ける・近いパスコース、遠いパスコースを作る」といったボールを保持しつつ相手ゴールにせまる様々な武器を磨くことが指導されたが、実際の試合の中では、「きっちりつないで保持する」と「五分五分あるいは四分六分でもロングボールを入れていく」、「強引にボールを運ぶ・突破する」といったプレーがエイバルやドイツのランツフトというチームのレベルの高いところでは状況に応じてのプレー選択が見られた。高校サッカーの短い時間においては、選択できるプレー(武器)を増やし、自分たちのレベルと相手のレベルに応じて、選択すべきプレー(状況が次に行うプレーを示してくれる、という指導もあった)を精度高く行うことで、強豪ひしめく神奈川県でより上位に食い込んでいけるのではないかと期待している。また遠征での指導練習を通じて、普段竹谷先生を始めとするスタッフの皆さんから受けている指導が非常に得難いものであることも感じられたと思う。遠征で見たこと、聞いたこと、感じたこ

とを糧にしつつ、それらを取捨選択し、個人のプレーやチームのプレーに落とし込んで、今後のさらなるレベルアップにつなげていってほしい。

また、サッカーは高校サッカーで終わるものではなく、その先も大学や社会人やクラブチーム、そしてシニアと続けていくことができる。私

自身、高校でのサッカーが終わったあとも、その先にいろいろなチームに所属させていただき、いろいろなサッカーのスタイルや指導者、チームメイトと出会うことができた。高校時代にはレギュラーとして、1本目として出場できなかったとしても、大学や社会人のチームでは主力となり、自分（たち）でチーム全体を考えて、自分（たち）のサッカーをいろいろな場面で披露できる選手は多くいる。いろいろなサッカーとの出会い、サッカーを通じてのひととの出会いを楽しみにしてほしい。

帯同ドクターとしてもひとこと。当初、（整形）外科ではない私で大丈夫だろうかという不安が大きかったが、内科系の疾患が発生すること

も予想され、また食物アレルギーをもつ選手もいたため小児科医の私でもお役に立てればと引き受けさせていただいた。準備においては、現在

戸塚の病院で整形外科をされている55回生の鈴木英一先生から帯同チームドクターの心得をご教示いただき、持参薬剤などについても詳細なアドバイスを頂戴した。幸いにして大きな外傷や疾病もなく、一行が無事に帰国できたことに安堵している。

最後に、相羽団長ご夫妻、竹谷先生、町田コーチを始めとする湘南スタッフ・選手のみなさん、遠征前、遠征先でのOBの皆様の温かいご支援、クリニックを10日間以上閉めていくことを快く（？）了解してくれたクリニックのスタッフ、地域の患者さんたちにこの場を借りて感謝申し上げます。



ピアノ調律師を描いた本屋大賞受賞小説「羊と鋼の森」、このタイトルの意味おわかりですか？ ピアノの部品「弦を打つ羊毛のフェルトハンマー」「弦・弦張力を支える鉄骨など金属部品」「響板など響きに重

要な木製部品」が由来です。ピアノは身近な楽器なのにその中身・構造はピアノリストの方でもあまりご存知ないようです。チョコちゃんに叱られてしまいそうですね。



グランドピアノが置かれた部屋

信州白馬村在住、48回の山口です。30年間ピアノ調律師としてヤマハに勤務、13年間の欧州駐在から帰国後退社し10年前に当地に引っ越し、宿泊滞在できるピアノ練習スタジオ「アンプロムプテュ白馬」を経営しております。アルプスの絶景を眺めながら調整されたグランドピアノでピアノ三昧できる施設として内外の多くの音楽家の皆様にご好評いただいております。



スタジオ全景と夏の白馬

ピアノはたいへん重い楽器で（最大500kg）弾きなれた自分の楽器を持ち歩くことは不可能です。一部の例外を除いては、どんなピアノでもそこにあるピアノを演奏する以外方法がありません。ピアノを構成する多くの部品は木・フェルト製で、温湿度など環境の変化に非常に敏感で、音律・タッチ（弾き心地）・音色などデリケートな調整が頻繁に必要となります。しかしピアノは他の多くの楽器と異なり、演奏者自身が楽器を調律・調整することはできません。そこで調律師という存在が必要となります。演奏者の求めに応じてその楽器が持つ最大の魅力を引き

出せるように調整するのです。単なる工業製品とは違い音楽を表現する



素晴らしい紅葉の白馬、八方

楽器であるところが難しくまた面白みでもあります。音律を正確に調律するだけでなく、鍵盤の深さを0.1ミリ深くしたり、弦を打つフェルトハンマーに針を刺し硬度を微妙に変えて、音色・響き・タッチを調整します。魔法のように音が変わることもあります。そんな技を駆使して演奏者と会話しながら最高の音を楽器から引き出すのが私たち調律師の仕事です。最近メディアで取り上げられることも多く、前述の小説「羊と鋼の森」や「蜜蜂と遠雷」、BSのTV番組「もう一つのシヨパンコンク

ル」などで話題になりました。「羊と」は調律師が主役でしたがちよつと情緒的すぎると感じましたが、「蜜蜂」は架空のコンクールを主題に、その構成員・表現力・取材力に脱帽でした。



雪山を望むスタジオ

音楽の本場欧州にも長期駐在したため、欧州サッカーもたつぷり楽しみました。マルセイユが強かったころのフランスリーグ、高原がプレーしていたころのハンブルグ、等々、週末はスタジオム通いでした。有名な国際ピアノコンクールに関わる機会もありました。モスクワのチャイコフスキーコンクールはサッカーWC杯と同様4年に1度の開催、しばら

くの間、同年同月の開催で「演奏に集中できない！」とサッカー好きの若きピアニスト達を悩ませておりました。1958年アメリカ人ヴァン・クライヴァーンが優勝した第1回は、同時期にスウェーデンW杯でペレが活躍しました。2002年日韓開催で日本がロシアに勝利した日、私は出張で敵地モスクワにいて「日本人が襲われる：」などとたいへん怖い思いをしました。次のコンクール開催が諸事情により5年後の2007年となり以後チャイコフスキーコンクールとW杯の関係は終止符をうちました。

快適に調整されたグランドピアノでもおもしろい練習したいという方は是非白馬へお越しください。プロの方はもちろん、子供さんもアマチュアの方も、自称・世界一の練習環境をご用意してお待ちしています。大自然に囲まれてピアノを弾く喜びを味わってみてください。ピアノを弾きに旅に出ませんか！白馬でお待ちしております。

*お気軽にお問合せください。
アンプロムプテュ白馬

☎ 0261-8514760



1. U-76の活動

0-70カテゴリーで勝敗を争う公式戦は長谷川監督(38回生)のもと76才以下のU-76チームで臨みました。最も成績を重視する大会が関東大会そして全国大会に繋がる「全国シニア神奈川リーグ」です。参加4チームのホーム&アウェイ戦を行い、3勝1敗2分で準優勝でした。昨年に引き続き今年も茅ヶ崎の牙城を崩せず悔しい想いをし、来年の雪辱を期することになりました。「神奈川シニアリーグ」も同じ4チームの参加ですが、こちらは1回戦制で3試合を行い、2勝1敗でやはり準優勝でした。

U-76チームは県外にも遠征し、「家康公記念杯清水スパーシニア」、「市原インターナショナルマスターズ」、「サッカーフェスティバルECOPA掛川」、「Gリーグ栃木(那須)」、「Gリーグ茨城(ひたちなか市)」、「スーパージェイサッカー大

会イン刈谷」、「清水4県対抗」、「東日本ロイヤルサッカー大会那須」の8つの大会に参加し、12勝10敗5分と何とか勝ち越すことができました。青森、岩手、新潟など、日ごろ対戦しないチームとの懇親も楽しい思い出です。

合計して36試合と昨年より多くの試合に臨み、全体として好成績を残せたのは田部井(42回生)をはじめとする3人の新人(当年度70才)と75才にして衰えぬ技術、走力を備える牧村(37回生)の活躍によるところの多い1年間でした。

2. 0-75、0-80の活動

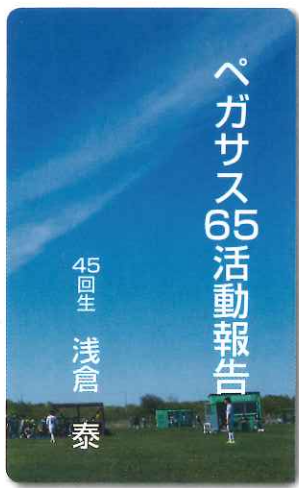
0-70会員の半数にあたる18名が75歳以上で、その中で9名が80歳以上です。これら高齢メンバーを含めた0-70練習会を毎週火曜日に平塚馬入グラウンドで行っています。この中で、交流戦として毎月ロイヤルリーグを全員参加で実施しています。0-75の練習会もほぼ毎週、横浜や川崎で開かれています。

最近では0-75や0-80の大会が多く開催されるようになりましたが、これらの大会には「神奈川」や「首都圏」チームの一員としてペガサスメンバーが参加しています。今年も0-75の大会は、「サッカーフェス

テイバルECOPA掛川」、「宮城松島大会」、「東日本ロイヤル大会」の3大会が行われ、0-80の大会は同じ掛川、宮城松島、東日本ロイヤルに加えて「西日本OB連盟堺大会」と4大会が行われました。

ペガサス単独でのチーム編成はまだまだ難しいのですが、今年初めて開催のGリーグ0-75大会には、ピジターメンバーを加えて、ペガサス0-75チームとして参加しました。これからは0-75そして0-80のペガサスとしてのチーム作りが期待されます。

生涯現役を目指して、怪我の無いようサッカーを楽しみたいと思います。



今年のペガサスの60台は大変複雑な構成になりました。

従来のペガサス60が2チームに分かれて、トーラス60(概ね65歳以上)とペガサス60がシニアリーグに登録しました。0-60全国シニア予選

は一部の65歳以上のメンバーも含めてペガサス60として参加しています。その中で、ペガサス65はトーラス60+他チームからの選手5名+ペガサス60でGリーグの参加資格を満たした選手4名で構成されており、関東各県で開催されるGリーグに参加しました。

昨年は15試合を戦いましたが、今年には残念ながら開催されなかった埼玉大会、東京大会、そして酷暑の7月開催の茨城大会は参加者が少なく参加中止を余儀なくされました。その結果、参加したのは4月市原大会と6月栃木大会の2大会で戦績は1勝3敗1分でした。それぞれ参加者を集めるのが大変で70からの応援、他チームからの臨時助っ人までかき集めて何とか試合を行ったと言う状況でした。

来年ですが埼玉大会は復活する予定ですが、東京大会は今後も開催されず、代わりに群馬大会が新設されるそうです。どうしても県内のリーグ戦の試合を優先せざるを得ず、日程調整が難しい状況が有ります。

個人的に他チームが藤枝市開催大会に参加するにあたり参加者不足でお誘いを受け、参加してきましたが、今後も各大会に参加を継続して行く

為には、同じ様な形を取り2チーム合同で参加すると言う様な事も検討していく必要があるのではないかと考えております。



「トーラス60誕生経緯」

「トーラス60?」と感じておられる方々に、まずは、トーラス60の誕生経緯を簡単にご説明します。

これまで、湘南ペガサスでは50代のメンバーが多い状態が続いていたのでペガサス50とペガサス55の2チームを神奈川シニアサッカーリーグ五十雀に登録していました。この年齢層のメンバーが60代になってきた結果、ペガサス60のメンバーが増え、シニアリーグ戦では多くのメンバーが前半か後半のみのプレーとなっていました。そこで、六十雀への登録チームを2つにする計画が浮上、ペガサス60に加えて新チームの新規登録を神奈川シニアサッカーリーグに打診したところ、同じ母体とわかる

チーム名で2チームの登録はできないとの回答がありました。そこで60代前半のメンバーで構成されるチームをこれまで通りペガサス60とし、新たに60代後半のメンバーで構成されるチームとしてトールラス60を登録しました。

ちなみに、ペガサスは星座のペガサス(天馬)座、トールラスは牡牛座です。

【今期の成績】

神奈川シニアサッカーリーグ六十六雀2部に新規登録となった今期、当初は試合参加者が十分集まるかどうか懸念されていましたが、メンバー諸氏のご協力で、何とか全試合を消化する事が出来ました。ただ、65才以上のメンバーのチームが60才以上のチームと試合する事になるのでどうしても運動量に差が出て苦戦を強いられる結果となりました。今期はシニアリーグ初戦で川崎に1・0で勝利したものの、その後は勝利から遠ざかり、戦績は1勝6敗2分、勝ち点5で10位(最下位)でした。6敗の内、3試合は1点差の試合でした。原因は何といても得点力の低さです。シーズン通して総得点はわずか2点でした。もちろん六十雀2部でも最少得点です。どうやって得

点力をつけるかが当面の課題です。

【来期へ向けて】

今期は、相手守備陣の裏、左右コーナーフラッグ前のエリアにスルーパスを出す事をテーマにしてみました。ウイングが縦に走ってセンターリングを上げ、相手ゴール前で勝負する事が目的です。試合前に監督が同じイラストを使って説明を繰り返し、攻撃イメージの共有を図りました。これは徐々に功を奏してきてはいるものの、なかなかシュートに繋がりません。相手ゴール前での攻撃側の絶対数が不足している為です。ゴール前に飛び込む人数を増やす必要があります。どうすれば分厚い攻撃ができるかメンバー全員で考えながら来期に臨みたいと思います。来期は得点力をアップして勝ち点10を目指します。



湘南ペガサスサッカークラブの60歳代は、会員が多いため2018年

度からシニアリーグ(以降「リーグ」と言う)の活動を2チームに分割、年長者チームを「トールラス」(牡牛座のこと。森会長の発案)、年少者チームを「ペガサス」とし、シニアリーグに登録し活動しています。

一方、全国大会シニアの神奈川県予選リーグ(以降「全国シニア」という)は、年令の区別なく60歳代を1チームとして、これは希望者のみが登録して活動しています。

そのうち私が今期監督をしているペガサス(リーグ)と全国シニアの戦績については、湘南高校サッカー部のホームページから参照いただけるので詳細は割愛しますが、ひとことで芳しくありません。リーグは11月18日の最終戦に勝てば一部残留、引き分けか負けでは二部降格という状況です。(会報が出る頃には結果は出ていますが、吉報となるよう頑張りたいと思っています。)

また、全国シニアも11月3日に今期初めて完勝しましたが、通算は1勝3敗で順位は今のところ下の方です。ただし、まだ4・5試合残っているのも一つでも多く勝てるように頑張りたいと思っています。

では、何故戦績が芳しくないか。これは私の監督としての能力の足り

なさもありますが、参加者全員が出場してなおかつ勝ちにこだわるのはとても至難の業です。体調が悪い人もいれば、私のように技術が劣る人もいます。

でもサッカーがしたくて休日にわざわざ試合に来るのですから全員が出場をすべきなのです。よって、全員なるべく半分は出場楽しんでいただくということは今後もこだわっていきたいと思っています。サッカーはボールを蹴って・走って・汗をかいて楽しいものです。人がプレーしているのをただ外から応援しても面白くありません。

そのような状況で、楽しんで勝つためにはどうしたよいか、それは相手チームよりよく動いて走り勝ち、味方同士の距離を縮めてパスを交換し、シュートまで持ち込んで点を取るということでしょうか。ボランチからのパスが云々等、戦術がどうのこうのと言う人がいますが、勝つためにはよく動くこと。これは中先生に教わったサッカーを実践すれば良いという気がします。

話は少し変わりますが、シニアサッカーのもう一つの楽しみとして、試合後のコミュニケーションがあります。現状65歳以上の方は県外の試合

で1泊し仲良く酒を酌み交わしていますが、60のチームも今後県外の試合も行っていきたいと思っています。私の来期の課題です。

最後に、子育ても激務だった仕事も一段落して、サッカーを再開したいと思っっている50歳以上の方へ、蹴球祭や仙台一高との定期戦に是非参加していただきたいと思います。特に仙台一高定期戦は今年から浦和高校も加わり交流を活性化しようという機運があります。勝敗にこだわらないシニアサッカーには理想的な試合なので、是非参加ください。



湘南ペガサスの50代は昨年度までは50と55の2チームに分かれて活動していましたが、今年度より両チームの人数の減少により、55のチームは消滅し50に一本化されることとなりました。当初、45名ぐらいの人数帯になり、私などすっかり出番がなくなるのではないかと思っております。

したが、今年度よりGK以外は原則年齢通りのチームに所属するという取り決めが強化され、55のメンバーのうち約10人が60に上げられたことにより、37人（他全国シニアのみ参加の方2名）体制で、昨年度50監督の新村と55代表の私がそのまま監督、代表として留任し、50代表だった吉岡（57回生）に総務、経済学者の藤原（55回生）に会計をお願いして新体制のスタートとしました。

昨年度は50、55とも1部リーグでプレーしましたがともに入れ替え戦を待たずに自動2部降格となつてしまいましたので、今年の湘南ペガサス50は50雀2部リーグに所属してのスタートとなりました。初戦こそ新設された柳島公園で勝利しましたが、その後3連敗、最終的に2勝3敗2分、得点8、失点9の成績となり8チーム中6位で終了しました。全体的にはやはり大所帯で年会費徴収率は高いものの試合参加者が意外に少なく、なかなかベストメンバーが組めなかったことが苦戦の原因と考えられます。

来シーズンは、すでに60のチームでプレーされている2名の方を含めて7人の方が60に上げられる予定で、40からの昇格はわずか1名（それも

休会に近い状態の方）ということ、休会者を除くと30名を切る陣容になりそうです。しかしながら、名門湘南ペガサスの50代チームとしてはいつまでも2部リーグに甘んじているわけにはいきません。OBを中心に新たに入会者を募り、試合への参加率を高めることが2年ぶりの1部昇格のための強化ポイントであると考えております。

OB会報をご覧の50代の皆様、是非また一緒にボールを蹴って懐かしい仲間と勝利の美酒を分かち合いましょう。ご連絡をお待ち致しております（田中聡 stanaka-nsu@uminet）



OB、OGの皆様、こんにちは。ペガサス40の井上です。まだ県議長杯トーナメントが進行中ですが、今季のシニアリーグを振り返ってのご報告をいたします。加えて、特に40代の皆さん、もうすぐ40歳になる皆さんには、是非お読みいただきたい

ことがありますので、最後までお付き合ってください。

昨季悲願の1部リーグ優勝を果たして迎えた今季、目標を一体どこに置くのか。「連覇」を掲げるのは簡単ですが、ここ数年優勝チームの翌季大崩れを目の当たりにしてきただけに、意外と悩ましい問題。当初、「2部残留」案が出ましたが、さすがに消極的に過ぎるとの意見もあつたため、積極的な姿勢を控えめに加え、「早期に残留を決める！」に。

開幕戦は2部からの昇格チームとの対戦でしたが、これを落としてしまい、大崩れの予兆か？と大いに懸念したものの、第2節以降は何とか持ち直し・・・。

残留に必要な勝点が10（勝点9で入替戦）であったことは最終節終了後に判ったことですが、振り返ると第5節（4/29開催）までに勝点10を積み上げたため、開幕黒星はあつたものの、「早期に残留を決める」との目標は無事達成。

×○△○○○△×△△。これは今季リーグ全11戦の星取推移。4勝5分2敗の4位ではありますが、ラストの3連続ドロウはいずれも終了間際に同点ゴールを許す展開のもの。この3試合を通じ、試合運びや体力

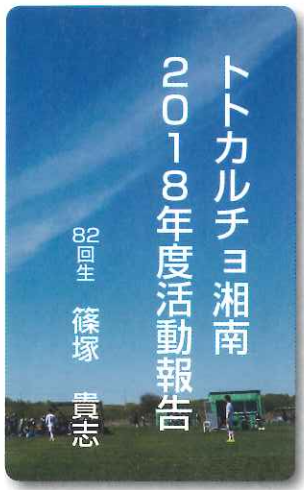
面で、我々にはまだまだ伸びしろがあるものと感じました。今後の成長が楽しみです方がありません。

結果だけを見ると、終盤戦は思うように勝点を積みませんでした。試合中はポジティブな声掛けが継続され、ミスは周囲が次々にカバーするなど、チームの熟成度は高まっております、まさかゴールデンウィーク中の試合を最後に、その後全く勝利がなくリーグ戦を終えたチームとは思えないほど、雰囲気はとても良いシーズンでした。

また、その雰囲気の良いにも繋がったと思われる、チームとして成長したポイントは、誰がピッチに立っても同じようなサッカーができたことではないかと。家庭、仕事、怪我などにより、メンバーが一定しないのは毎季のことですが、今季は特にその傾向が強かったように思います。そんな中でも、試合前に、例えば「サイドの高い位置に早めにボールを運ぶ」「奪取できなくてもリトリートしながら要所でプレスを継続する」などの徹底を図り、かつ、ピッチ上でもその旨の声を掛け合うことを繰り返しました。結果、その日の出席メンバーの如何によらず、皆で具体的

なイメージを共有しながらプレーできるようになり、シーズンを通して安定的に戦うことを実現。メンバーが一定しないのはどのシニアチームも似たようなものかと思いますが、その中で、若木監督を中心にごういた取り組みができていたのはベガサス40の大きな強みと言えます。

最後に、40代の皆さんはもちろんのこと、間もなく40歳に到達する皆さん、ベガサス40と一緒にボールを蹴りませんか。戦績のことをいろいろ書きましたが、結果や順位は二の次で、とにかく楽しくサッカーをしています。晴れた日曜日、湘南の間と再びグラウンドで汗を流すのとても気持ち良いものです。現会員もそうしているとおり、当然家庭や仕事を優先しつつの参加で構いませんので、一緒にピッチに立ちましょう。会員一同、ご参加をお待ちしています。ゴラッソ、ビッグセーブを決めるのはあなたです！



湘南高校サッカー部OBの皆様、平素より大変お世話になっております。若手OBチーム、トトカルチヨ湘南の篠塚貴志(82回)です。ここ数年は長(88回)にチームの運営を任せきっていますが、私もまだまだ元気にプレーしています、という報告を兼ねて久しぶりに会報への報告を書かせて頂いています。特に今シーズンには昨シーズンから継続して若手の新規加入が増え、10代の選手が多くなりました。ピッチ内の平均年齢はリーグで一番若いかもしれませんが、私も今年度で30歳となりますので、「二回り違う」後輩とプレーする日も目前となっております。チーム内では群を抜いた最年長となっておりますが、まだ暫くは後輩たちと楽しくサッカーをさせて頂きたいと思っています。

なかなか良い知らせを届けられず恐縮ですが、まずはトトカルチヨ湘南の2018年度神奈川県リーグ(三部)の試合結果を御報告させて頂きます。

5月27日 FC	REBOOT×1-2
6月17日 FC	Girasole○2-1
6月27日 FC	ARROWS×0-3
7月15日	美蹴団新横浜×0-2

7月29日 Lyaggio○2-1
8月26日 YFC鎌倉○2-1
9月30日 Panasonic/VIORA○2-0
10月21日 SALVATOREI991○2-1
【5勝3敗(4位)】

冒頭にある通り、今シーズンは多くの若手が新規加入しました。特に夏以降は例年以上にベンチの人数も多く、充実したメンバーで戦えたと思います。しかしながら例年通り、序盤の敗戦・連敗により入替戦(昇格戦)への進出を逃してしまいました。3試合目で試合中の不運な怪我(救急車搬送+付き添い1名)により人数不足になり大敗した結果、最終順位が4位となってしまったことが悔やまれます。ただ、概ねすべての試合で優位にゲームを進めているにも関わらず、3点以上取れている試合が無く、更に無失点で終えている試合がほとんど有りませんでしたので、チーム全体として昇格へのこだわりが欠けているのかもしれない。(決定力が無いことは、代々の課題かと思いますが...) 例年、初戦3試合目に上位チームとの試合が多くなる傾向があるため、シーズン序盤におけるチームのまとめや勝敗へのこだわりをより

一層強めていくことが課題となっています。トトカルチョ湘南は定期的な練習を行わず、各自サークル活動等と兼部して県リーグに参加している状況ですので、解決が難しい課題ではあります。特に12月3月のオフシーズンの活動を増やしてシーズン序盤にメンバーを固定できていることができれば、昇格の可能性が極めて高くなるでしょう。少しずつではあります。春・夏のOB会に加えて現役生との練習試合や、対外的な練習試合などを増やそうと模索しているところ。 (長君が頑張ってくれています。)

チームの「まとまり」という点では、90回生(阿部・石村・境・鶴田・中石・橋本)に代表されるように、ここ数年は同学年でまとまって登録しているメンバーの連携が強みになっているように思います。高校時代から共に練習した仲間とは連携がとりやすく、また同期が多い学年は出席率も高いためチーム力の底上げにつながっています。他のチームには無い、OBチームの特有の強みといえるでしょう。まだトトカルチョに参加されたことが無い方も、87回生(野崎・濱田・人見) 89回生(杉原・内藤・丸山)まで各学年に登録者

がいますので、登録している同期に声をかけていただき、より多くのOBに参加して欲しいと思います。私をはじめ、86回生の石川(先輩?・コーチ?・先生?)、長(88回)、町田(89回)など、サッカー部のコーチを務め、各学年に精通したメンバーもおりますので、気軽に連絡していただき、参加してみたい。86回生より上の学年は転勤の都合で退団してしまつたメンバーも多いですが、後輩たちとサッカーをやりたい方はぜひご連絡ください。トトカルチョは先輩・後輩の垣根なく、ともに同じグラウンドで練習をした仲間として楽しく試合をしています。湘南高校サッカー部は私が在学中から2度顧問の先生が変わっており、

どの学年の選手もしっかりと基礎技術を持ち、原理原則をよく理解してプレーしているので、学年間の連携不足はあまり感じられません。それぞれ湘南高校のグラウンドで、真摯に練習に取り組んできたことを強く感じさせられます。湘南高校サッカー部OBとして今後もまだまだサッカー部OBとしてまとまってサッカーでできる可能性を感じておりますので、今後も継続して若手OBのコミュニケーションの場でありたいと

思います。OGの参加・応援も大歓迎です。湘南サッカー部のOBはそれぞれ具体的な目標をもって大学生活に打ち込んでいるので、就職活動にはあまりお役に立てないかもしれませんが、幅広い業界の先輩がおりますので少しは相談に乗れますし、人脈拡大にでも役立ててもらえれば幸いです。

現役サッカー部が好成績を挙げ続ける中でトトカルチョ湘南は伸び悩んでおりますが、若手が充実している今こそ、二部・一部への昇格を果たしたいと思えます。今後とも、トトカルチョ湘南の活動に興味を持っていただけると幸いです。



『ビーチサッカー部は、モテるからね』これは、2018年、全国の地上波(フジテレビ系列)で流れたドラマ『こんな未来は聞いてない!』のセリフです。主人公のイケメン高校生が、ビーチサッカー部のキャプ

テンという設定で、彼の登場シーンが出てきました。

このドラマが、茅ヶ崎をロケ地としたこともあり、縁あって、ビーチサッカーの監修を務め、一瞬でしたが、審判役で出演もしました。現実世界では、国内で、高校生のビーチサッカー部はまだなく、まだまだマインースポーツなので、地上波のドラマで取り上げられることすら驚きです。それなのに、さも当たり前のように『モテる』というキラークレーズと共に、ポジティブに紹介されている。脚本を貰った時に、このセリフに衝撃を受けると共に、このセリフに説得感がある絵になつて欲しいと切に思いました。

しかし、主人公役の俳優さんは、サッカー未経験(キックボクシング経験あり)とのことで、頭を抱えました。地上のサッカーですら、未経験だと、不恰好に見えてしまうのは。結果、何とか、キックボクシング効果で、イブラヒモビッチみたいなオーバーヘッドキックなど、アクロバティックなシーンを形にし、無事故送されました。個人的には、悪天候が続く中で、撮影日が何度も何度も変更となる等、なかなか体験

できないドラマ撮影の現場にも立ち会え、とても良い経験となりました。前置きが長くなりましたが、そんな『モテる?』ビーチサッカーチーム『湘南スプレッド1545』は12年目となりました。今年も、関東リーグを5位、関東大会をベスト6で終え、全国大会出場を逃しました。

しかし、関東大会では、準決勝進出を掛けた試合で、東京ヴェルディB S (その後、全国大会優勝) 相手に2対3と善戦。スコアが広がりやすい競技だけに、この一番の戦いで、トップレベルのチーム相手に接戦に持ち込むことができました。また、全国のトップ10チームを集めた大会では、2日間で、5試合を戦った末、7位の成績となり、全国でもまだまだ戦える勢力を維持しています。

今年もこの場を借りて、選手及びサポーターとして下さる方を募集させて頂きます。少しでも興味を持った方がいましたら、気軽にご連絡頂ければと思います。毎年、ビーチサッカー及び湘南スプレッドのことを書く機会を頂き感謝しております。初めてお会いするOBの方で、この会報を通じて、ビーチサッカーを知ったというが増えてきました。これからもビーチサッカーを通じて、OB

の皆様にも明るいニュースをお届けされるよう頑張つて参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願ひします。

79回生 櫻井大輔

(二財)日本ビーチサッカー連盟評議員
関東ビーチサッカー連盟 事務局長

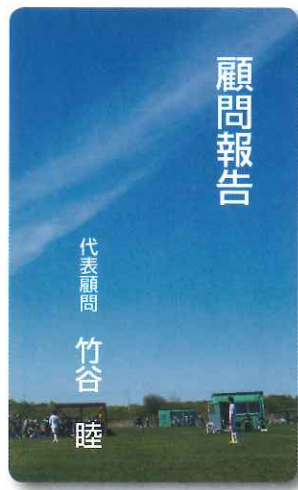
(二社) 神奈川県サッカー協会

ビーチサッカー担当

藤沢市ビーチサッカー協会 理事

メールアドレス..

sakuraaid@jimconsult.com



「今年度も、OB会の皆様には多大なご支援を頂きましてありがとうございます。どうぞございます。

OB会の皆様のご支援により、今年度も湘南高校サッカー部海外遠征を無事に終える事ができました。初めてのドイツでプロの試合観戦、トレーニング指導、そしてスペインにおいても前回よりも更にスペインら

しい指導者によるトレーニング指導等、様々な貴重な経験を選手たちはすることが出来たのではないかと思ひます。事前準備から様々な場面において動いて下さったOBの方々、同行して下さいましたOBの方々、現地まで激励に来て下さったOBの方々、本当にありがとうございました。

また、今年度4年間OBコーチとして、サッカー部の活動に本当に尽力して下さいました町田道誠(89回生)コーチが学生生活を終えるという事で、OBコーチとしては最後の年となりました。特に今年度夏以降の最後の選手権期間終了までは、ほぼ連日に渡って指導して下さい、その結果、負けてしまいました。最後の選手権2次予選2回戦の東海大相模高校との一戦においても、激闘を繰り広げてくれました。後ほど町田コーチからもコメントをして頂きますが、本当にお疲れ様でした。この場をお借りして御礼申し上げます。さて、今年度の大会結果についてはご存知の通り、関東大会2次予選は3回戦で向上高校に1-3で破れベスト38、インターハイ2次予選では1回戦で鎌倉高校に1-2で破れベスト30、選手権2次予選では2回戦で東海大相模に2-3で破れベス

ト30、U-18リーグではトップチームがK3リーグCグループ3位、BチームはK4リーグCグループで4位、CチームはK4リーグDグループ8位という結果になりました。

今年の3年生は、23年ぶりの選手権2次予選ベスト8の結果を見て湘南高校サッカー部へと入部してきた代であり、入部当初から志も高く、選手層も厚い学年だったと感じます。1年次には関東予選でベスト8を経験しましたが、選手権予選で1次予選敗退、2年次ではチームの中心選手も多くなり、最後の選手権予選で優勝した桐蔭学園に惜しくも敗れ、悔しい思いを胸に今年度を迎えました。海外遠征帰国後まもなくの関東予選では、中々コンディションも整わず、インターハイでも2次予選初戦に鎌倉に延長戦の末惜しくも敗れ、しっかりと自分たちの力を出し切れないことに非常に苦しんでいたように思ひます。個性も強く、ポテンシャルの高い選手も多かっただけに、最後の選手権2次予選で東海大相模相手に善戦したことは、選手たちを高く評価する半面、前半の1点リードを後半の試合運びに上手く繋げられなかったことが非常に悔やまれます。しかし、サッカー面と同様に、学

業においても優秀な選手が多い学年でもあるので、すでに始まっている受験勉強では、先輩方に負けたくない結果を残してくれると期待しております。1、2年生については、もう一度基礎基本から見直し、昨年、今年の結果に負けぬよう、神奈川県制覇を目指して日々精進してまいりたいと思います。OBの皆様の今後の更なるご活躍を祈るとともに、引き続きの温かいご支援の程よろしくお願い致します。」



OBのみなさま、平素より大変お世話になっております。現在、OBコーチを務めさせていただいております。89回生の町田道誠です。

4年間の大学生活で最も尽力したOBコーチも今年で最後となりました。その中で、OBのみなさまには多大なるご支援、ご指導をいただき、チームだけでなく、自身自身が大きく成長することができた

と感じております。この場をお借りして御礼申し上げます。また、現役として1回、OBコーチとして2回、海外遠征に帯同させていただいたことは自分自身にとってかけがえのない経験であり、そのような機会をいただけたことにも感謝の念につきません。誠にありがとうございました。夏以降、諸事情からリーグ戦と選手権予選のチームを任せていただきました。自分自身、力不足を感じる部分が多々あり、選手を混乱させてしまったこともあつたと思います。しかし、そのような状況でも、東海大相模のような強豪チームに対して善戦することができたのも、選手がしっかりと意志を持ち、彼ら自身の力を出しきれたからではないかと考えております。その彼らの力を最大限発揮させられなかった自分の指導力不足が非常に悔やまれます。自分勝手な考えではありますが、3年間を通じて感じた悔しさや楽しさを持った選手が来年度以降、大学の体育会でサッカーを続け高みを目指す、OBコーチとして湘南高校のグラウンドに帰ってきて後輩たちのために自分の経験を伝える、ということをしていただければと思っております。

最後になりますが、改めて4年間を通してお世話になった選手、スタッフのみなさま、そして何よりもいつも暖かく支援していただいたOBのみなさまに感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。



今回、現役報告をさせていただく竹内拓夢です。

日頃より、OBの皆様の心強いご協力とご支援により、日々充実した活動を送れること、大変感謝しております。そのご支援への感謝の気持ちを忘れずに、ご期待に応えられるよう、日々精進していきたいと思っております。

9月22日に東海大相模高校に敗れ、3年生の引退が決まりました。今までチームを支えてくれた3年生25名の引退によって、このチームには神奈川県ベスト8の経験を持つ選手が誰もいなくなることとなりました。新チームではチームの伝統を繋

ぐためにも、ベスト8、さらにはその上の神奈川県頂点まで全員で駆け上がっていく覚悟です。

私たちは今、個人の力の向上に取り組んでいます。主に、サッカーの一番の基本となる「止める・蹴る」の正確性や、私たちが強豪校に勝つには欠かせない「走る」能力、さらには私たちの武器になり得る「ヘディング」の技術の向上を図っています。これらのことを、今まで積み重ねてきた、湘南のストロングポイントである「粘り強い守備」や「集中力」と融合させることを意識しつつ、日々の練習や練習試合に臨み切磋琢磨しています。まずは、半年後に控える関東大会予選に照準を合わせ、「強いチーム」になることを目指していきます。

また、通常のポルトレーニングだけではなく、食事を含めたコンディショニング指導や走り方・動き方のトレーニング、ウェイトトレーニングなど様々な視点からサッカーを見つめなおすことで、総合的なチーム力の向上につながっていると感じています。このような、他のチームにはなかなかない恵まれた環境でサッカーができていることをチームの強みにしつつ、この環境を当たり前だ

と思わず、支えてくれる方々に感謝して日々の活動に取り組んでいきたいと思えます。

しかし、神奈川制覇という最大の目標にたどり着くには、私たちがまだまだ長い道のりが待ち受けているのが現実です。とはいえ、決してたどり着けない場所ではないということも今回の選手権で感じることができました。この目標への距離を少しでも縮めるために、日々の練習から自分たちの甘さを徹底的に排除し、自身の濃く質の高い練習にしていきたいと考えています。

昨春には、OB会の皆様のご支援による、海外遠征に参加させていただきました。スペイン・ドイツでの現地チームとの試合や、現地のコーチの指導からサッカーの新たな捉え方に触れられただけでなく、学校交流・観光などを通して、日本とは違う環境の中で様々な経験ができました。この経験は部員にとって言葉では言い表せないほどの大きな財産になりました。この貴重な経験をサッカーだけでなく今後の人生にも生かしていきたいと思っています。

部員一同、竹谷先生をはじめとする先生方・コーチの方々のご指導のもと、全国の舞台を目指し日々努力

してまいります。OBの皆様の温かいご支援にはたいへん感謝しております。これからも変わらぬご支援をよろしくおねがいいたします。

創部100周年

記念事業経過報告

「協賛金募集」のお願い

OB会副会長 41回生 相羽 克治

平素はOB会の活動にご協力いただき感謝申し上げます。

昨年の会報で、「記念誌編集」につきましましては、概略を述べさせていただきました。その後、幹事を中心に会議を開き、他の事業につきましても検討が始まりましたので、この1年の簡単な経過報告と新たな「協賛金募集」のお願いをさせていただきます。

記念誌編集…

①発行は、学校の創立年に合わせ、2021年8月に変更。

②内容は従来通り、本文・人物伝・年表・写真の構成。本文は8章のうち5章を12月から作成開始。年表は集まった資料等をこれから整理。人物伝・写真の詳細は

今後の検討。

記念式典…

どのような形態にするかこれからの課題ですが、各位のご意見を聞きながら進めます。

記念グッズ…

Tシャツを考えており、ご協賛者や式典参加者に配布。

「協賛金募集」のお願い

次ページに要項を載せておりますので、通常のOB会費にプラスになります。趣旨をご理解いただき、是非ご協力を宜しくお願い申し上げます。

編集後記

事務局長 48回生 関 佳史

記念誌の編集委員は、相羽克治(41)、植松二郎(41)、中嶋修(48)、沢田ミツル(50)、若木均(64)、西智(71)、篠塚貴志(82)と関の8名。(敬称略)各自が分担して調べた材料を持ち寄り、最後はプロの作家の植松さんが書く。準備した材料が、美しい文章に仕上がっていくのが楽

しい。読んでわかりやすく、面白いものが少しずつ出来上がりつつある。2017年中に創部から戦前の強化が実った時期を経て国体優勝までは書きあがった。2018年には、植松さんが体調を崩したことがあってペースダウンはしたが、宮原先生の時代から鈴木中先生の時代までは書き進んだ。あしかけ4年、じっくりと時間をかけての作業を通じて、OB会の縦のつながりが強くなっていることを感じる。

2019年8月の夏のOB会でのセミナーでは、創部から旧制中学時代を経て、昭和の時代についてのプレゼンテーションを編集委員でやる予定だ。記念誌には使えない動画、写真や記事を使用して、みてわかりやすい講演会を目指す。

閑話休題、秋に久々に浦和高校OBとの試合が実施された。50歳以上で仙台一高とのOB定期戦を数年間継続してきたが、そこに浦和が加わった。十数年前までは教育大付属、浦和、湘南OBの定期戦、FUSがあったが長く成立していなかった。浦和は50歳台を中心にチームを組めるようになった。浦和戦が中止になって十年以上たったが、OB交流は続けたい。



湘南サッカー部100年。 「特別協賛金」のお願い

2018年12月吉日

湘南サッカー部OB会 100周年記念事業 協賛金募集について

湘南サッカー部OB会
会長 小泉 親昂

冠省

湘南高校の設立100周年(2021年)に際し、サッカー部OB会としても記念事業を実施したいと存じます。つきましては、その事業費として協賛金のご支援をOB・関係者の方々にお願いするに至りました。何卒、趣旨にご賛同いただき数多くの方々に協賛をお願いする次第です。

草々

記

(1) 記念事業費の総額 450万円(予定)

【内訳】

100周年記念誌×2,000部 (配布先:湘南サッカー部OB、現役(10年先位まで)、関係者など)

記念式典費用補助 (招待者・現役生など、約100名分の負担)

記念グッズ (Tシャツを想定、今回協賛者や記念式典参加者への配布など)

雑費 (記念誌・記念グッズの配布や連絡などの費用、他)

※上記450万円には、OB会100周年事業向け積立金(約200万円)を含む

(2) 募集要領

①募集対象: 湘南サッカー部OB・関係者(任意)

②募集期間: 2019年1月～7月(第一次募集)

③協賛金額(一口):

・一般:10,000円/一口 ・特別:50,000円/一口

④協賛金振込み口座:(OB会費口座とは違います。ご留意願います!)

横浜銀行 藤沢中央支店(店番号:618)

・口座番号 (普通) 6206726

・口座名 湘南高校サッカー部OB会 100周年事業

※OBの方は、お振込み人氏名の前に、卒業年次(回)を入れて下さい

(例)50回 湘南太郎

⑤会計報告:2021年度のOB会報にてご報告予定

尚、余剰金は本事業の決算後にOB会費の会計に組み入れます

⑥100周年事務局(会計担当): 沢田ミツル(50回生)

E-mail m-sawada_bmc1956@jcom.zaq.ne.jp

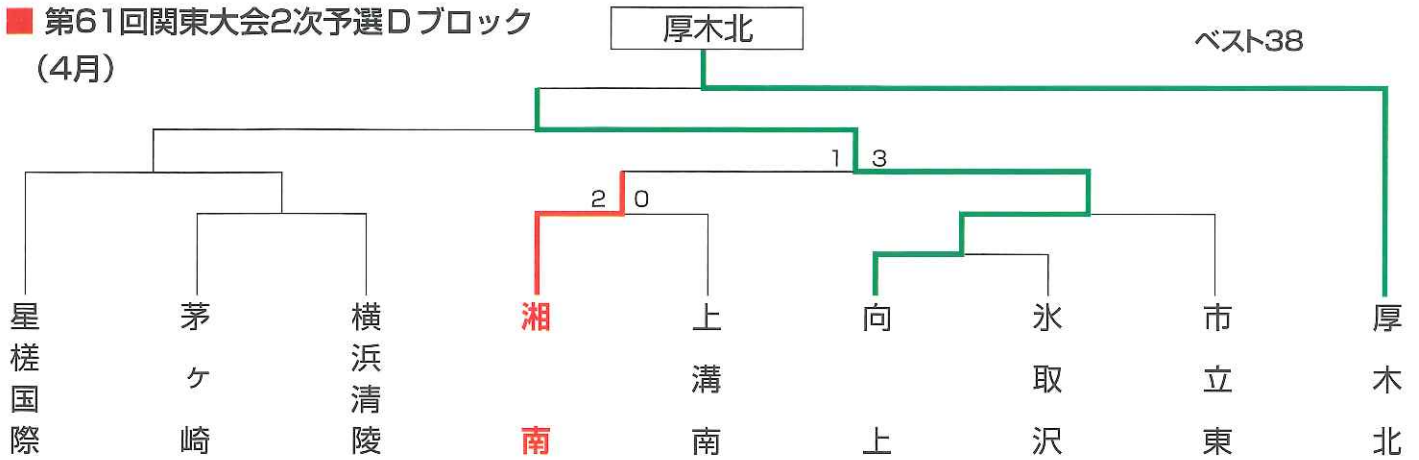
Tel 090-1660-7461

以上

現役戦績報告

【総評】「勝てる相手」には確実に勝てるようになったが、「格上」には「善戦」どまり。基礎技術のさらなるスキルアップと走力の強化が課題。新チームに期待したい。

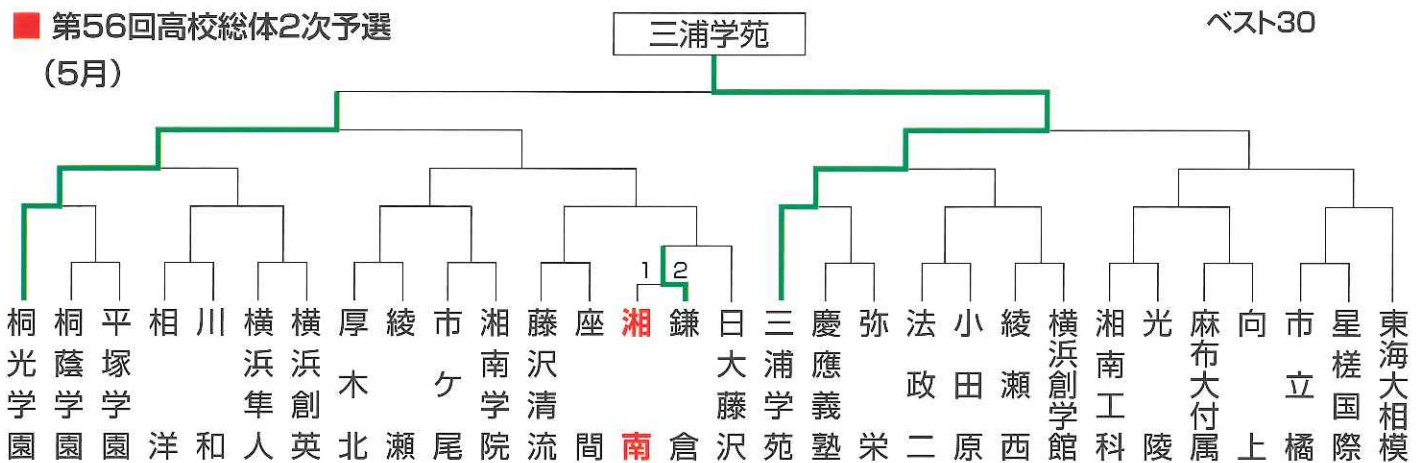
■ 第61回関東大会2次予選Dブロック (4月)



立ち上がりからロングパスでサイドを突かれ、対応できず失点。その後フリーキックとバックパスをカットされ

計3失点。湘南も何度かチャンスを作るが、トラップとパスの不正確さが目立ち、1点を返すに終わった。

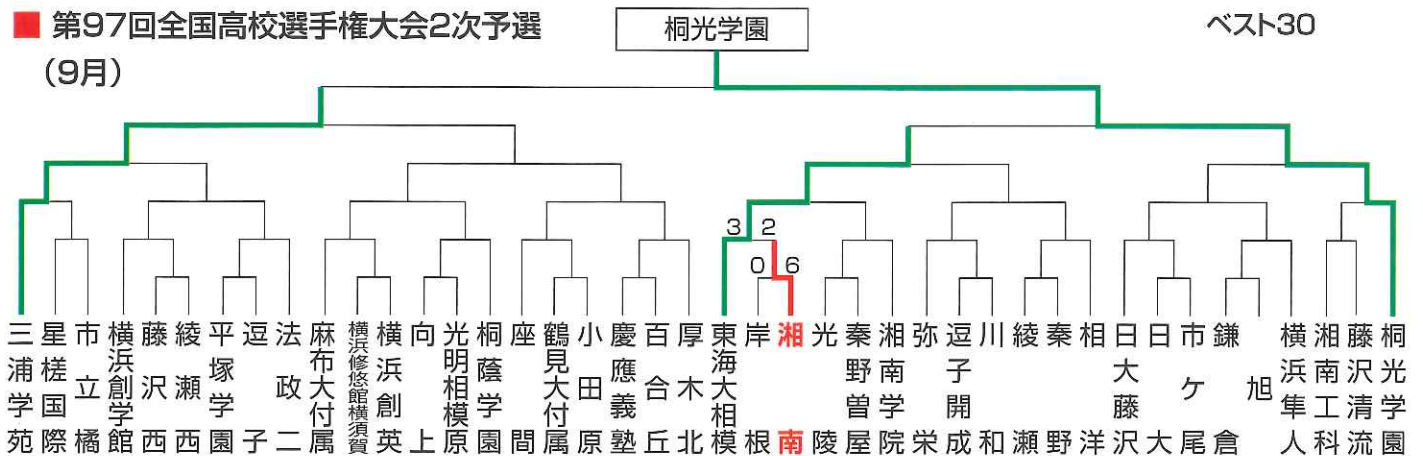
■ 第56回高校総体2次予選 (5月)



前半はロングパスの応酬。少ないチャンスの中、CKから押し込み先制。その後は一進一退、相手攻撃に耐え

ていたが、タイムアップ寸前ワンプレーで失点。延長戦は相手に勢いがあり1点取られ敗退。

■ 第97回全国高校選手権大会2次予選 (9月)



相手は関東予選優勝の強豪。ボールは相手に保持されるが、きっちり守り、CKを決めて前半は1-0。後半も相手責めを凌ぐが、早い時間PKで同点に追いつかれると、守

備が乱れ、連続で2失点。終盤追い上げるが、CKからの1点にとどまり2-3で敗退。これで3年生は引退。新年度は1月の関東予選シード決め戦から。健闘を期待したい。

[平成30年度 会計報告・予算案]

収入

	30年実績	31年予算
会費・寄付	1,455,974	1,370,000
前年度繰越	72,889	112,897
スペイン遠征繰越金(補助)	400,000	0
利子	1	0
計	1,928,864	1,482,897

※収入見込み 社会人 145名、学生 40名が納入 10,000×105名+ 5,000×40名+ 3,000×40名

支出

	30年実績	31年予算
現役寄付(付属戦補助含む)	500,000	500,000
蹴球祭	82,967	90,000
スペイン遠征補助(繰越金)	750,000	400,000
通信・事務費	103,064	100,000
印刷費	159,936	180,000
100周年積立へ	200,000	200,000
翠嵐高校100周年お祝い	20,000	
繰越金	112,897	予備費 12,897
計	1,928,864	1,482,897

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、6年前より少しずつでもと内部留保に努めております。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしく願いたします。現在積立金は、
¥1,600,516 - です。

また、100周年事業に関しては現在、幹事及び各世代代表と話し合い「記念誌」発行への作業を進めております。OB各位に資料など情報をお願いすることもございますので、ご協力よろしく願致します。

イベントに関しては今後の課題ですが「実行委員会」をつくり検討していきます。こちら各各位のご協力をお願い致します。

現役寄付・会計報告 平成29年11月15日～平成30年11月10日

収入		支出	
前年度から繰越	-3243	遠征補助	50,498
寄付	500,000	トレーニング用品等	133,710
その他	0	筑波大附属定期戦	0
計	496,757	会場・試合等	86,539
		参加費等	20,000
		海外遠征関連	0
		ボール	100,000
		コーチ費用	106,010
繰越金	0	計	496,757

[31年度会費納入の件]

30年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしく願いたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付を願いたします。(振り込みには卒業年を入れてください)

- ・社会人 1口 5,000円
- ・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるよう願いたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166
湘南高校サッカー部OB会
武藤俊一 TEL. 0466 - 34 - 9329

お問い合わせ・ご質問は

[ホームページアドレス]

湘南サッカー  で検索。

湘南サッカー部OB会
<http://www.shonan-soccer.com>

[メールアドレス]

関 佳史 (事務局)
seki6644@yahoo.co.jp

武藤俊一 (事務局)
muto-s@jcom.home.ne.jp

横山雅行 (事務局)
m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp

グラウンドに来て、旧交をあたためましょう。

[蹴球祭・総会のご案内]

期日：1月5日(土)

場所：湘南高校(グラウンド、清明会館)

関東大会予選のシード権の試合が、13日(日)14日(月)開催の為、
例年より1週間繰り上がります。お間違えないよう。

当日は「ペガサス祭り」を併催します。

スケジュールは大きく異なりませんが、ご協力よろしくお願い致します。

09:30~10:50	若手紅白戦(現役は休暇明けにて試合不可)
11:00~12:00	総会 幹事会は9:30~11:00
*この時間にペガサスは練習できますが、OBは総会に出席してください	
12:15~12:30	現役交歓式
12:30~13:30	食事
13:30~15:30頃	原則40以上「OB+ペガサス交流戦」
*なお、17:00よりペガサス祭懇親会。OB参加歓迎です。	

※本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄って下さい。
※受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

